

科目名	保育内容指導法（健康）				担当者名	白金 俊二	
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	幼児にとっての基本的な生活習慣の形成、怪我や病気の予防や安全について、運動遊びの意義や保育の実際について理解し、子どもが健やかに成長するための保育者の役割について考え、保育を実践する力を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心情や動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「健康」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「健康」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「健康」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「健康」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「健康」の模擬保育について					
8	領域「健康」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		課題レポート	課題の趣旨を理解した内容とまとめ方			40%	
		成果物提出、発表	指導案など授業内の成果物の提出状況や発表内容			40%	
		模擬保育	指導案の計画に沿った保育の実践			20%	
教科書	保育内容健康（光生館） 保育内容の指導法健康（学術文芸出版）						
参考図書	幼児期運動指針（文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）「保育所保育指針解説」（厚生労働省）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（内閣府・文部科学省・厚生労働省）						
準備学習	予め教科書に目を通しておき、分からないことは事前に調べておく						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却をする						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者						

科目名	保育内容指導法（人間関係）					担当者名	山口 美和
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25E24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・③
授業内容	領域「人間関係」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説し、領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の作成を学習する。						
到達目標	具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を理解することができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「人間関係」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「人間関係」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「人間関係」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「人間関係」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「人間関係」の模擬保育について					
	8	領域「人間関係」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		参加態度	授業への参加態度			20%	
		リアクションペーパー	授業の内容を理解し、適切にまとめられているか			20%	
		最終レポート	課題を理解し、論旨が明確に論じられているか			60%	
教科書	『平成29年度告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（チャイルド本社） 岸井慶子・酒井真由子編著『コンパス保育内容人間関係』（建帛社）						
参考図書	授業時に適宜紹介します。						
準備学習	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に目を通しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		保育内容指導法（環境）				担当者名	副島 里美
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25E24B03	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・5領域における「環境」を理解する ・保育にかかわる様々な実践を考えることによって、環境の在り方を考察する ・保育にかかわる物的・空間的環境の構成について、発達に応じた保育環境を計画する 					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解する ・子どもの発達と環境のかかわりについて理解し、環境を整えることが子どもの発達や主体性に繋がることを理解する ・計画した保育内容について、自分自身、あるいはお互いにアセスメントし、よりよい計画に繋げることができる 					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「環境」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「環境」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「環境」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「環境」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「環境」の模擬保育について					
	8	領域「環境」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		小テスト		授業の振り返り		40%	
		授業態度				10%	
		提出物				20%	
		最終課題		テストあるいはレポート		30%	
教科書		大沢 裕『コンパクト 保育内容シリーズ 環境』（一藝社） 高山静子『学びを支える保育環境作り』（小学館） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）読み解く『障害児保育』（萌文書林）					
参考図書		適宜指示する					
準備学習		適宜指示する					
課題等に対するフィードバック方法		適宜指示する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1時間～2時間を推奨する					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名		保育内容指導法（言葉） 幼2種（必修）				担当者名	渡邊 望
ナンバリング		25E24B04	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容及び保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について解説したうえで、領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について学習する。そのうえで、領域「言葉」の特性を考慮した情報機器や教材の活用法と指導案の構成や指導案の作成、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。					
到達目標		具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法が分かる。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「言葉」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「言葉」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「言葉」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「言葉」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「言葉」の模擬保育について					
8	領域「言葉」の模擬保育の振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		確認テスト (筆記試験)		ことばの発達と保育者のかかわりについて40点満点で筆記試験を行う。授業内容を理解しているかで評価する。		40%	
		指導案作成・模擬保育		指導案作成(20)子どもの姿、留意点が記され、実際に保育が可能か否か、模擬保育(10)声の大きさ、進め方、振り返り(10)自己評価、今後の課題、以上の観点で評価し配点する。		40%	
		授業参加態度		授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する。		20%	
教科書		『保育内容（言葉）』同文書院 太田光洋編著 2021年					
参考図書		『幼稚園教育要領』、『幼稚園教育要領解説』（以上、文部科学省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（以上、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『保育所保育指針』、『保育所保育指針解説書』（以上、厚生労働省）					
準備学習		これまでに学修した、保育の基本や子どもの育ちなどについて、理解していることを前提に授業を進めます。2学期までの学びを確認したうえで受講してください。					
課題等に対するフィードバック方法		<ul style="list-style-type: none"> ・質問などは授業中、授業の前後で受け付けます。 ・即応が必要なものはその時に対応しますが、基本的には次回の講義時に質問内容も含め全体に周知します。 ・各課題、確認テストの振り返りは授業内で行います。 					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項		<p>①毎回の授業の内容をプリントやテキストで振り返り、理解を深めてください。</p> <p>②絵本などの児童文化財は「知っている」だけでなく、子ども達の前で「できる」ことが大切です。授業で紹介された内容を参考に各自で取り組んでください。</p>					
実務経験と資格等		実務経験:保育所・幼稚園での保育経験10年、保育者養成校での教員経験17年 資格等:幼稚園教諭免許・保育士資格					

科目名		幼児と表現（音楽表現）				担当者名	浅倉 恵子
		幼2種・保育士（必修）					
ナンバリング		25E24B05	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		手遊びを導入として展開する幼児の音楽表現活動の援助法を、実践的に学ぶ。					
到達目標		手遊びを導入とする幼児の音楽表現活動の援助法を身につける。					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼児の遊びや生活における領域「音楽表現」の位置づけについて					
	2	幼児の音楽表現を生成する過程について					
	3	音楽表現の知識と技能について（1）ピアノの伴奏方法					
	4	音楽表現の知識と技能について（2）弾き歌いの技能					
	5	音楽表現の知識と技能について（3）手遊びと指導方法					
	6	音楽表現の知識と技能について（4）子どもが歌うための援助方法					
	7	音楽表現の知識と技能について（5）幼児歌曲（童謡と遊び歌）					
	8	音楽表現の知識と技能を活かした幼児の表現活動の展開について					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		平常点評価		授業への取り組み姿勢、模擬保育の準備を評価する		60%	
		試験		実技課題の達成度を評価する		40%	
						%	
						%	
教科書		『手遊びから音楽身体表現あそびへー指導案で示した保育の展開例ー』浅倉恵子、風詠社、2020年 『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年					
参考図書							
準備学習		模擬保育を担当するときは、準備物を工夫し、準備・練習する					
課題等に対するフィードバック方法		実技練習についてはその都度講評、解説を行う					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習およびピアノの練習に1～4時間を奨励する。					
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	保育内容指導法（造形表現）					担当者名	水野 道子
	幼2種・保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B06	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	1年・④
授業内容	子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ。子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につけ保育計画や指導案を作成し模擬保育を行う。						
到達目標	①領域「表現」の内容について基礎的な知識を得る。②授業内での模擬保育を構築することができる。③保育者として自ら表現することの楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の支援を行う力を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいと内容について					
	2	保育所保育指針に示された乳児保育における視点と領域について					
	3	領域「造形表現」の指導上の留意点と評価の考え方について					
	4	領域「造形表現」の特性を考慮した情報機器と教材の活用法について					
	5	領域「造形表現」における保育の構想と指導案の構造について					
	6	領域「造形表現」の具体的な保育を想定した指導案の作成について					
	7	領域「造形表現」の模擬保育について					
8	領域「造形表現」の模擬保育と振り返りによる保育の改善について						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				20%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	テスト	模擬保育の教材研究にかかわる試験での達成率				50%	
教科書	「表現指導法」上野奈初美編著 萌文書林、「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	教育制度論					担当者名	大佐古 紀雄
	幼教2種 (必修)						
ナンバリング	25E24B07	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・①
授業内容	社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響と課題及び課題に対応するための教育政策の動向、現代公教育の意義や原理と構造について法的・制度的仕組みについて解説し、学校・行政機関・地域との連携によって危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みについて学習する。						
到達目標	学校や教育行政機関の目的及び学校と地域との連携の意義や協同について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	学校を巡る状況の変化及び子供の生活の変化と指導上の課題について					
	2	近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情と教育改革について					
	3	公教育の原理と理念及び公教育制度を構成している教育関係法規について					
	4	教育行政の理念と仕組み及び教育制度をめぐる諸課題について					
	5	学校経営の望むべき姿及び教育活動の流れと学校評価の重要性について					
	6	学校経営の仕組みと方法及び関係者や関係機関との連携・協働について					
	7	学校と地域との連携の意義及び地域との協働について					
8	学校安全の目的と必要性及び安全管理と安全教育の取り組みについて						
成績評価方法と基準	評価方法		評価基準			割合	
	授業参加態度(提出物含む)					30%	
	試験(筆記)					70%	
教科書	適宜提示する。						
参考図書	星野敦子編著、桶田ゆかり・近藤有紀子著『「共創の時代」の教育制度論』、学文社、2021。						
準備学習							
課題等に対するフィードバック方法							
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	大学の認証評価を行う機関による調査研究や省庁から受託した委託研究などを通じて得られた教育制度に関する知見をもとに、幼児教育・保育をめぐるさまざまな制度を理解するための視野を培う授業を行う。						

科目名	特別支援教育・保育論Ⅱ					担当者名	副島 里美 細渕 富夫 (オムニバス)
	保育士(必修)						
ナンバリング	25E24B08	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	障害の概念と障害児保育の歴史的変遷について解説し、障害児と特別な配慮を要する子どもの保育の実際及び現状と課題について考察する。肢体不自由児・知的障害児・視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児・発達障害児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と発達援助について学習する。						
到達目標	障害児を支える理念及び障害児や特別な配慮を要する子どもの理解と、保育における発達の援助や過程への支援並びに障害児保育の現状と課題について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	障害の概念と障害児保育の歴史的変遷及び障害児保育の基本について(副島里美)					
	2	障害のある子の理解と発達支援(1)知的障害児・肢体不自由児(細渕富夫)					
	3	障害のある子の理解と発達支援(2)視覚障害児・聴覚障害児・言語障害児(細渕富夫)					
	4	障害のある子の理解と発達支援(3)発達障害児(ADHD・LD・ASD)(細渕富夫)					
	5	障害のある子の理解と発達支援(4)重症心身障害児・医療的ケア児(細渕富夫)					
	6	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育(1)指導計画と支援計画(副島里美)					
	7	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育(2)子どもの健康と安全(副島里美)					
	8	障害児と特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題について(副島里美)					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書	細渕富夫他編『特別な支援を必要とする子どもの理解』建帛社、2023年 尾野明美 ほか『エピソードから読み解く 障害児保育』(萌文書林)						
参考図書	特になし。						
準備学習	あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時にコメント、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	ワークブック等を活用して理解を深める。						
実務経験と資格等	臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園等、附属特別支援学校にて知的障害児、自閉スペクトラム症児等の教育研究に従事						

科目名	教育方法論					担当者名	副島里美、森下孟 (オムニバス)
	幼2種 (必修)						
ナンバリング	25E24B09	授業の種類	講義	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質や能力を育成するために必要な教育の方法やあり方、育みたい資質や能力と幼児理解に基づいた評価の考え方について概説したうえで、情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用について学習する。						
到達目標	情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成や活用ができる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育方法の意義と目的及び思想と歴史について (担当: 副島里美)					
	2	今後の社会を担う子供たちに求められる資質と能力について (担当: 副島里美)					
	3	育みたい資質や能力と幼児理解に基づく評価の考え方について (担当: 副島里美)					
	4	保育を構成する基礎的な要件について (幼児・学級・教員・教材等) (担当: 副島里美)					
	5	保育を行う上での基礎的な指導技術について (話法・板書等) (担当: 森下孟)					
	6	指導案の構成と作成について (担当: 森下孟)					
	7	情報機器を活用した教材等の作成について (担当: 森下孟)					
	8	情報活用能力を育成するための指導法について (担当: 森下孟)					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		振り返りレポート	毎回のレポート			40%	
		課題	課題			20%	
		授業態度	授業への意欲等			10%	
		定期試験	定期試験			30%	
教科書	「保育方法の基礎」(柴崎正行編著)わかば社 教育の方法と技術 Ver.2: IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び, 稲垣忠(編著), 北大路書房						
参考図書	適宜指示する						
準備学習	適宜指示する						
課題等に対するフィードバック方法	適宜指示する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等							

科目名	教育相談					担当者名	細 淵 富夫
	幼2種（必修）						
ナンバリング	25E24B10	授業の種類	講 義	単位数	2	開講時期	1年・④
授 業 内 容	教育相談の意義と役割及び幼児の発達の状況に即しつつ、幼児の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要なカウンセリングの意義と理論や方法、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備、組織的な取り組み及び専門機関等との連携について学習する。						
到 達 目 標	教育相談の進め方と教育相談の計画の作成や校内体制の整備など、組織的な取り組み及び専門機関との連携について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	教育相談の意義と役割について					
	3	教育相談に必要な基礎知識（1）カウンセリングとは					
	4	教育相談に必要な基礎知識（2）カウンセリングの理論と技法Ⅰ（精神分析）					
	5	教育相談に必要な基礎知識（3）カウンセリングの理論と技法Ⅱ（自己理論）					
	6	教育相談に必要な基礎知識（4）カウンセリング技法Ⅱの理論と技法Ⅲ（行動療法）					
	7	子どもの発達と教育相談					
	8	教育相談におけるアセスメント					
	9	教育相談の進め方（1）障害児のある幼児・児童に対する教育相談（発達支援）					
	10	教育相談の進め方（2）保護者に対する教育相談（保護者支援）					
	11	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（1）いじめ					
	12	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（2）登園しぶり					
	13	発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方（3）虐待					
	14	教育相談の体制整備と多職種連携について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		コメントカード	授業を理解し、その概要を適切にまとめ、乾燥・意見を整理できたか			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			50%	
教科書		住本克彦『教育相談』建帛社、2022年					
参考図書		特になし。					
準備学習		あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと。					
課題等に対するフィードバック方法		返却時にコメント、解説を行う。					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する					
その他 留意事項		ワークブック等を活用して理解を深める。					
実務経験と資格等		臨床発達心理士・公認心理師として、幼稚園、特別支援学校等で教育相談に従事してきた。					

科目名	子ども家庭福祉				担当者名	副島 里美 中野 明子 吉澤 恵子 (オムニバス)	
	保育士 (必修)						
ナンバリング	25E24B11	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・③
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達を考える上で、家庭福祉がいかに重要かについて学ぶ 児童の権利について考える 多様な保育(福祉)ニーズについて学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利が家庭・園・地域の中でどのように守られていくべきかを説明することができる 現代社会における多様な現状(少子化への対応、貧困家庭、虐待など)を理解し、支援方法を考えることができる 						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について(担当:全教員)					
	2	子ども家庭福祉の理念と概念について(担当:吉澤恵子)					
	3	子ども家庭福祉の歴史の変遷について(担当:吉澤恵子)					
	4	子どもの人権擁護の歴史の変遷について(担当:吉澤恵子)					
	5	児童の権利に関する条約について(担当:中野明子)					
	6	子ども家庭福祉の制度と実施体系について(担当:吉澤恵子)					
	7	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職について(担当:吉澤恵子)					
	8	少子化と地域子育て支援及び母子保健について(担当:吉澤恵子)					
	9	多様な保育ニーズへの対応について(担当:副島里美)					
	10	子ども虐待及びDVとその防止について(担当:副島里美)					
	11	障害のある子どもへの対応について(担当:副島里美)					
	12	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応について(担当:副島里美)					
	13	子ども家庭福祉の動向と展望について(担当:吉澤恵子)					
	14	海外の子育て支援の現状について(担当:中野明子)					
15	授業のまとめ(担当:全教員)						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	小テスト	授業の振り返り				40%	
	提出物	レポート提出				20%	
	授業態度	グループディスカッション等に意欲を持って参加しているか評価				10%	
	最終課題	筆記試験あるいはレポート				30%	
教科書	『家庭支援論・保育相談支援』学文社						
参考図書							
準備学習	次回のシラバスを確認。教科書および関連する報道等に関心を持ち、授業に臨むこと。						
課題等に対するフィードバック方法	授業で課した課題(レポート等)は作成し提出。返却時にコメントを添え、学びに繋げていく。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1~4時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	福島めばえ幼稚園教諭・横浜市認可保育園園長・福島学院大学短期大学部保育学科にて授業担当。(保育士・幼稚園教諭・保育実習指導者認定)						

科目名	社会福祉				担当者名	比田井 友香	
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B12	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、社会福祉の制度や法体系と社会福祉行政財政や社会福祉施設及び社会保障や関連制度を解説したうえで、その方法や技術について学習する。						
到達目標	社会福祉における相談援助の意義と機能や、対象と過程及び方法と技術について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	社会福祉の理念と概念について					
	3	社会福祉の歴史の変遷について					
	4	子ども家庭支援について					
	5	社会福祉の制度と法体系について					
	6	社会福祉行財政と実施機関について					
	7	社会福祉施設と専門職について					
	8	社会保障及び関連制度について					
	9	相談援助の意義と機能について					
	10	相談援助の対象と過程について					
	11	相談援助の方法と技術について					
	12	利用者の保護に関わる仕組みについて					
	13	社会福祉の動向と課題について					
	14	諸外国の動向について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準			割合		
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%		
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%		
	試験	問題の正答率			40%		
				%			
教科書	『子どもの未来を育む社会福祉』（2023年3月）ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						

課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う
準備学習(予習・復習等) に必要な時間	1～4時間を推奨する
その他 留意事項	
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士

科目名	子ども家庭支援論					担当者名	小笠原 憲子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B13	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	子育て家庭に対する支援の意義と役割や必要性及び目的と機能について概説したうえで、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について解説し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について学習する。						
到達目標	子育て家庭の福祉を図るための社会資源や子育て支援施策・次世代育成施策など、子育て家庭に対する支援体制について理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	子ども家庭支援の意義と必要性及び目的と機能について					
	3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について					
	4	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援について					
	5	保育士に求められる基本的態度について					
	6	家庭の状況に応じた支援について					
	7	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力について					
	8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について					
	9	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について					
	10	子ども家庭支援の内容と対象について					
	11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援について					
	12	地域の子育て家庭への支援について					
	13	要保護児童等及びその家庭に対する支援について					
	14	子ども家庭支援に関する現状と課題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業参加状況	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する				30%	
	課題への対応	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				40%	
						%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「子ども家庭福祉論」同文書院 2022 太田光洋編著						
準備学習	授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						

課題等に対するフィードバック方法	添削をし、返却。返却時に講評、解説を行う。
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する。
その他 留意事項	保育士資格必修科目
実務経験と資格等	・児童福祉施設職員の研修・指導等の経験あり。・地域子育て支援拠点の運営・運営責任者の経験あり。

科目名	社会的養護Ⅱ				担当者名	比田井 友香	
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B14	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	子ども理解を踏まえた日常生活支援、治療的支援、自立支援などの社会的養護の基礎的な内容、施設養護及び家庭養護の生活特性と実際について解説する。そのうえで、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際と社会的養護に関わる相談援助の方法や技術、子どもの虐待の防止と家庭支援及び今後の課題と展望について考察する。						
到達目標	社会的養護における子ども理解のうえで、アセスメントと個別支援計画の作成、記録及び自己評価を作成することができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	社会的養護における子どもの理解について					
	2	日常生活支援・治療的支援・自立支援について					
	3	施設養護及び家庭養護の生活特性及び実際について					
	4	アセスメントと個別支援計画の作成					
	5	記録及び自己評価について					
	6	保育の専門性に関わる知識と技術及び実践について					
	7	社会的養護に関わる相談援助の知識と技術及び実践について					
	8	社会的養護における家庭支援及び課題と展望					
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準			割合		
	授業姿勢	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価			30%		
	中間レポート	テーマに基づき問題意識を持ち、自分の考えを述べられているかを中心に評価			30%		
	試験	問題の正答率			40%		
					%		
教科書	『子どもの未来を支える社会的養護』（2019年11月）ミネルヴァ書房						
参考図書	授業時に適宜案内する						
準備学習	事前に教科書に目を通すなど、予習をしておくことを推奨する						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを配布して次回フィードバックを行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	社会福祉士・精神保健福祉士						

科目名	子ども家庭支援の心理学					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B15	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	1年・④
授業内容	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について学ぶとともに、初期体験の重要性や発達課題、家族や家庭の意義と機能、親子関係や家族関係等について発達的な観点から考察していく。						
到達目標	子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題及び子どもの精神保健とその課題について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	現代社会における子育て支援の必要性について					
	3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について					
	4	学童期後期から青年期にかけての発達について					
	5	成人期・老年期における発達について					
	6	家族・家庭の意義と機能について					
	7	親子関係・家族関係の理解について					
	8	子育ての経験と親としての育ちについて					
	9	子育てを取り巻く社会的状況について					
	10	ライフコースと仕事・子育てについて					
	11	多様な家庭とその理解について					
	12	特別な配慮を要する家庭について					
	13	子どもの生活及び生育環境とその影響について					
	14	子どもの心の健康に関わる問題について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準			割合	
		レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験	問題の正答率			70%	
教科書	「子ども家庭支援の心理学 子どもの未来を支える家庭支援のあり方を探る」著編／北川裕美子 他3名 著／小川綾子他12名						
参考図書	「シードブック 子ども家庭支援の心理学」編著／本郷一夫、神谷哲司 「子ども家庭支援」著者／倉石哲也、大竹智 出版社／ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習しておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て家庭を支援する知識と技術を身に付ける。						
実務経験と資格等	【実務経験】幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の主任保育士、利用者支援事業利用者支援専門員（子育てコンシェルジュ）【資格・免許】幼稚園教諭二級免許、保育士、利用者支援事業利用者支援専門員						

科目名	子どもの理解と援助					担当者名	小林 詩子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B16	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・②
授業内容	保育実践において実態に即した子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義と、子どもの体験や学びの過程において子どもを理解するうえでの視点と基本的な考え方について解説し、子どもを理解するための具体的な方法について学習する。						
到達目標	発達の課題に応じた援助と関わりや、特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解している。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育における子どもの理解の意義について					
	2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開について					
	3	子どもを理解する視点（1）子どもの生活や遊びと人的環境					
	4	子どもを理解する視点（2）子ども相互の関わりと関係づくり					
	5	子どもを理解する視点（3）保育の環境と構成及び環境の変化と移行					
	6	子どもを理解する方法（1）観察・記録・省察・評価					
	7	子どもを理解する方法（2）職員間の対話と保護者との情報共有					
8	子ども理解に基づく発達の援助について						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		平常点・課題	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する			30%	
		定期試験	正答率			30%	
		各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか			40%	
教科書	新保育ライブラリ 子どもを知る 子どもを理解と援助 清水益治他著 北大路書房						
参考図書	よくわかる！保育士エクササイズ 子どもを理解と援助 演習ブック 松本峰雄監修 伊藤雄一郎他著 ミネルヴァ書房						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	長野女子高等学校講師、長野県短期大学講師 信学会長野幼稚園体育教諭 信学会裾花幼稚園体育教諭 中学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）高等学校教諭一種免許状（保健体育・家庭）						

科目名	子どもの保健					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B17	授業の種類	講義	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容	健康の概念と健康指標及び保健活動の意義と目的について概説したうえで、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題及び子どもの心身の健康増進を図る保健活動について解説する。そのうえで、身体発育及び運動機能並びに生理機能の発達と保健について学ぶとともに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応について学習する。						
到達目標	子どもの心身の健康状態とその把握の方法及び子どもの主な疾病の予防と適切な対応が分かる。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	授業の目的と概要について					
	2	健康の概念と健康指標について					
	3	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について					
	4	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について					
	5	地域における保健活動について					
	6	子ども虐待防止について					
	7	身体発育の発達と保健について					
	8	運動機能の発達と保健について					
	9	生理機能の発達と保健について					
	10	健康状態の観察について					
	11	心身の不調等の早期発見について					
	12	発育・発達の把握と健康診断について					
	13	主な疾病の特徴について					
	14	子どもの疾病の予防と適切な対応について					
15	授業のまとめ						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割 合	
		小テストや課題提出	課題の理解度			20%	
		試験	正答率			80%	
教科書	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂3版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社						
参考図書	・国民衛生の動向（厚生労働省） ・保育所保育指針						
準備学習	授業計画で示されている内容について、身近な子どもたちや新聞記事等に関心を持ち、授業に参加すること						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～4時間を推奨する						
その他 留意事項	授業内で伝えますが、自身の母子健康手帳を使用する時間があります。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として学校行事等への従事経験あり。						

科目名		子どもの食と栄養				担当者名	風間 悦子	
		保育士 (必修)						
ナンバリング		25E24B01	授業の種類	演習	単位数	2	開講時期	2年・①
授業内容		健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養と子どもの発育・発達と食生活の関連について具体例を挙げながら理解を深めるようにする。						
到達目標		養護及び教育の一体性を踏まえた保育における意義と目的や基本的考え方について、理解することができる。						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	授業の目的と概要について						
	2	子どもの心身の健康と食生活について						
	3	子どもの食生活の現状と課題について						
	4	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について						
	5	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について						
	6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について						
	7	幼児期・学童期の心身の発達と食生活について						
	8	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について						
	9	食育の内容と計画及び評価及び環境について						
	10	食生活指導及び食を通じた保護者への支援について						
	11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養について						
	12	疾病及び体調不良の子どもへの対応について						
	13	食物アレルギーのある子どもへの対応について						
	14	障害のある子どもへの対応について						
15	授業のまとめ							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		授業参加姿勢		授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			20%	
		課題提出		課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		試験		問題の正答率			50%	
教科書		子どもの食と栄養―演習― 岡崎光子編著 同文書院						
参考図書								
準備学習		授業に提示する課題をその都度きちんと理解しわからない箇所は調べておき、あらかじめ教科書に目を通し、予習をしておくこと						
課題等に対するフィードバック方法		返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～4時間を推奨する						
その他 留意事項								
実務経験と資格等		管理栄養士						

科目名	乳児保育Ⅱ					担当者名	橋本
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B19	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年
授業内容	3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的てきな考養護や教育の一体性をふまえ子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境についてを取り上げ、乳児保育における計画の作成について学習する。						
到達目標	乳児保育について長期・短期・個別・集団の指導計画を立てることができる。						
授業計画	回	内 容					
	1	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて					
	2	子どもの主体性の尊重と自己の育ち及び学びの芽生えについて					
	3	生活の流れと生活や遊びを支える環境の構成について					
	4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際について					
	5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際について					
	6	乳児保育における配慮の実際について					
	7	長期的な指導計画と短期的な指導計画について					
	8	個別的な指導計画と集団の指導計画について					
成績評価方法と基準		評価方法	評価基準				
		課題提出	課題の意味を理解し記述できているか				
		試験	正答率				
		参加態度	発言し提案していたか				
教科書	菊池篤子編(2022). ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ. みらい						
参考図書	①田中真介(2009). 発達がわかれば子どもが見える 0歳から就学までの目から実践. 幼児保育研究会 ②林万リ(2011). 優しく学ぶからだの発達. 全障研出版部 ③吉本和子(2002). 乳児保育 一人ひとりが大切に育てられるために. エイデル						
準備学習	毎回提示する課題を学習すること。テキストの該当箇所を読んで授業に参加する						
課題等に対するフィードバック方法	提出された課題はその次の会までにコメントして返却する。 その授業の最後に質問を受ける						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	資格：看護師、助産師 実務経験：産科経験7年間、NICU,小児科経験6年間、障害児施設5年間の実務経験						

佳美

F・②

えを解説し、
具体的な事例

下線部修正

割合

30%

50%

20%

ウロコの保育

研究所

こと

兎あり

科目名	子どもの健康と安全					担当者名	吉澤 恵子
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E24B20	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助と衛生管理や事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について概説する。そのうえで、子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策など、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的な事例を取り上げながら学習する。						
到達目標	子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価を理解できる。						
授業計画	回	内 容					
	1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について					
	2	保育における健康及び安全の管理について					
	3	体調不良や傷害が発生した場合の対応について					
	4	応急処置と救急処置及び救急蘇生法について					
	5	感染症対策について					
	6	保育における保健的対応の考え方について					
	7	個別的な配慮や障害のある子どもへの対応について					
	8	健康及び安全の管理の実施体制について					
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		グループワークや演習での課題	グループワークや演習への参加態度、課題の理解度を評価			20%	
		試験	正答率			80%	
教科書	「これならわかる！子どもの保健演習ノート」 改訂第3版追補 小林美由紀執筆						
参考図書	・保育所保育指針 ・保育所における感染症対策ガイドライン ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン等						
準備学習	各回の授業内容について、「子どもの保健」の教科書：授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂2版 小林 美由紀編著 森脇 浩一編集協力 診断と治療社で復習しておくこと						
課題等に対するフィードバック方法	リアクションペーパーを参考に、前回の授業の質問や振り返りを簡単に行う。また課題等は、採点后必要に応じて授業内で返却し、講評する						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	演習授業であるため、欠席した場合は必ず演習した内容の確認を行いましょう。						
実務経験と資格等	行政保健師として保健センターや子育て・子育て支援課、発達相談センターでの勤務経験、ならびに養護教諭として、学校行事等への従事経験あり。						

科目名	子育て支援					担当者名	平澤 泉
	保育士（必修）						
ナンバリング	25E25D21	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容	子どもの保育とともに行う保護者の支援や日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成など、保育士の行う子育て支援の特性について概説し、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について、実践事例等を通して具体的に学習する。						
到達目標	子育て支援の計画と実践や社会資源の活用について理解する。						
授業計画	回	内 容					
	1	保育者が行う子育て支援の特性について					
	2	要支援者の状況や状態の把握と支援の計画について					
	3	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて					
	4	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	5	保育所等及び地域の子育て家庭に対する支援について					
	6	障害や特別な配慮を要する子どもと家庭に対する支援について					
	7	虐待の予防と対応及び要保護児童等の家庭に対する支援について					
	8	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解について授業の目的と概要について					
成績評価方法と基準	評価方法	評価基準				割合	
	レポート	講義の趣旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	試験	問題の正答率				70%	
						%	
教科書	「子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック」著／二宮祐子 出版社／萌文書林						
参考図書	「人口減少時代に向けた 保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援 地域とともに歩む22の実践事例」編集代表／倉石哲也 出版社／中央法規出版 「今、もっとも必要な これからの子ども・子育て支援」（これからの保育シリーズ9）編著／土谷みちこ 著者／汐見稔幸 他3名 出版社／風鳴舎						
準備学習	授業に提示する課題に取り組み理解する。不明点は調べて理解する。教科書を読み込み予習をしておく。						
課題等に対するフィードバック方法	返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項	知識理解と共に課題意識を持ち授業に参加する事が望まれる。講義形式の講義の他、個人発表、2人から数人のグループ学習や討議等、参加型のワークショップや発表も行う。リフレクションを実施する。現代社会における子育て支援に関する知識と技術を身に付ける。						

実務経験と資格等

【実務経験】 幼稚園教諭、ファミリー・サポート・センターアドバイザー、地域子育て支援拠点「ひろば」の保育士、利用者支援事業利用者支援専門員(子育てコンシェルジュ)
【資格・免許】 幼稚園教諭二級免許状、保育士証、利用者支援事業利用者支援専門員

科目名		幼児と運動				担当者名	白金 俊二
		選択					
ナンバリング		25E24D22	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期
授業内容		鬼遊び、ボールなどの用具を使った遊び、遊具や器械・器具を使った遊び、その他環境を活用した遊びを実践的に学び、支援の仕方を身に付ける					
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の知的発達や運動機能の発達等を理解して保育を構想し実践できる ・ 幼児期の運動遊びの意義を理解できる 					
授 業 計 画	回	内 容					
	1	体づくり運動（1）体ほぐしの運動					
	2	体づくり運動（2）多様な動きをつくる運動遊び					
	3	運動遊び（1）器械・器具を用いた遊び					
	4	運動遊び（2）走ったり跳んだりする遊び					
	5	ゲーム（1）ボールゲーム					
	6	ゲーム（2）鬼遊び					
	7	表現リズム遊び（1）表現遊び					
	8	表現リズム遊び（9）リズム遊び					
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準		割合	
		課題レポート		課題の趣旨を理解した内容とまとめ方		80%	
		実技課題		実技課題に対する理解度や達成度		20%	
教科書		運動遊びのアイデアBOOK（ほおずき書籍）					
参考図書		幼児期運動指針（文部科学省）					
準備学習		予め教科書に目を通しておくこと					
課題等に対するフィードバック方法		添削をし返却する					
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		1～2時間を推奨する					
その他 留意事項		怪我等の予防のため、運動不足にならないように日ごろから留意すること					
実務経験と資格等		長野県内の公立小学校・中学校教諭として26年間勤務 地域のスポーツクラブの指導者及び幼児の運動遊び教室の指導者					

科目名		幼児と音楽				担当者名	浅倉 惠子 大南 匠 (共同)	
		選択						
ナンバリング		25E24B23	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・③
授業内容		幼児の音楽表現活動の実際を理解し、保育者援助について実践的に学ぶ。						
到達目標		子どもの音楽表現活動を学び、保育者援助法を身につける。						
授 業 計 画	回	内 容						
	1	歌唱・器楽・鑑賞の活動						
	2	音楽づくりの活動						
	3	子どもの音楽表現活動（1）歌唱・声の表現活動						
	4	子どもの音楽表現活動（2）器楽遊びの表現活動						
	5	音楽技術（1）歌唱活動の実践						
	6	音楽実技（2）器楽活動の実践						
	7	音楽実技（3）鑑賞活動の実践						
8	音楽実技（4）弾き歌いの実践							
成績評価方法と基準		評価方法		評価基準			割合	
		平常点評価		授業への取り組み姿勢を評価する			60%	
		試験		音楽表現の実技試験			40%	
教科書		『ピアノ伴奏こどものうた136』成美堂出版、2023年						
参考図書								
準備学習		ピアノの練習や音楽表現の創作および練習をする						
課題等に対するフィードバック方法		表現発表後に講評を行う						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間		毎回の授業の復習に1～4時間を奨励する						
その他 留意事項								
実務経験と資格等								

科目名	幼児と造形					担当者名	水野 道子
	選択						
ナンバリング	25E24B01	授業の種類	演習	単位数	1	開講時期	2年・④
授業内容	子どもたちの造形での遊びは体全体を使って表現することで知識や思考を深めていく。子どもたちのみずみずしい発想や創造的な思考を理解するために保育者として自身の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要である。実技を通して身につける機会とする。						
到達目標	領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達を促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	描画・表現技法					
	2	工作・製作技法					
	3	造形実技（1）絵の具遊びの実践					
	4	造形実技（2）絵画遊びの実践					
	5	造形実技（3）手作りおもちゃの実践					
	6	造形実技（4）壁面製作の実践					
	7	子どもの造形表現活動（1）季節の制作活動					
8	子どもの造形表現活動（2）行事の制作活動						
成績評価方法と基準		評価方法	評 価 基 準			割合	
		授業平常点	授業への参加意欲・取り組み姿勢を評価する			20%	
		レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか			30%	
		課題提出	製作課題の主旨を理解し、工夫し提出できたか			50%	
教科書	テキストは特に定めないが各回にプリントを配布。参考文献として「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館、「保育所保育指針解説」厚生労働省 フレーベル館						
参考図書	必要に応じその都度、提示する。						
準備学習	あらかじめプリントに目を通し、予習をしておくこと。						
課題等に対するフィードバック方法	課題に対して返却時における講評、解説を行う。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	講義・演習科目は1～4時間、実技・演習科目は1～2時間を推奨します。						
その他 留意事項	必要に応じ周知する。						
実務経験と資格等	小学校、中学校・高等学校（美術）教員免許を所持し教員実務経験をもつ。						

科目名	幼児と安全					担当者名	関 香保里
	選択						
ナンバリング	25E24B01	授業の種類	演 習	単位数	1	開講時期	2年・④
授 業 内 容	幼稚園や保育園、認定こども園などの教育・保育施設において多発している様々な事故の現状について概説したうえで、教育・保育施設において起こりがちな事故について過去の事例を踏まえながら解説するとともに、事故が発生した主な原因などを取り上げて事故の防止と対策のポイントを学習する。						
到 達 目 標	事故を防ぐために何をすべきか、子どもの命を守るために何ができるのかなど、事故の防止と対策のポイントについて理解している。						
授 業 計 画	回	内 容					
	1	教育現場や保育施設で起こる事故について					
	2	事故事例（1）お昼寝中の事故事例					
	3	事故事例（2）食事中的事故事例					
	4	事故事例（3）散歩中の事故事例					
	5	事故事例（4）送迎中の事故事例					
	6	事故事例（5）年齢別の事故事例					
	7	事故防止と事故対策（1）事故が起こりやすい場所の特定					
8	事故防止と事故対策（2）危険性や改善点の園内での共有						
成績評価方法と基準	評価方法	評 価 基 準				割合	
	授業態度	授業への参加意欲・取組姿勢を評価する				30%	
	レポート	課題の主旨を理解し、適切にまとめられ提出できたか				30%	
	各回のリアクションペーパー	振り返りを通して思考を深めようとしているか				40%	
教科書	適宜資料を配布する。						
参考図書	「幼稚園教育要領解説」（最新版）文部科学省。フレーベル館						
	「保育所保育指針解説」（最新版）厚生労働省。フレーベル館						
	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省・フレーベル館						
準備学習	授業に提示する課題をその都度理解し、分からない箇所は調べておく。						
課題等に対するフィードバック方法	添削をし返却する。						
準備学習(予習・復習等)に必要な時間	1～2時間を推奨する						
その他 留意事項							
実務経験と資格等	幼稚園主任10年、保育園園長2年、こども園園長1年 保育士資格・幼稚園教諭免許						